



# ノアの洪水と神の怒り？

『旧約聖書の物語文学』

旧約聖書の解釈

# 洪水前の状態

- アダムに対し土(アダマー)は雑草を生やして抵抗→
- カインは土(アダマー)から追放される→
- 悪が増して、肉なる者は皆終わらせられる
- 人間(アダム)と土(アダマー)の関係はついに決裂

# 悪がもたらすもの

- **悪**とは、神が定めた世界の秩序を混乱させること(墮落、不法)
- しかし、世界は**秩序**が支配するように造られている
- **悪**をひきおこす者が**消滅**して、世界はバランスをとりもどす(いわゆる「神の罰」)

## 創世6章5～7節

- 主は、地上に人の悪が増し、常に悪いことばかりを心に思い計っているのを御覧になって、地上に人を造ったことを後悔し、心を痛められた。主は言われた。「私は人を創造したが、これを地上からぬぐい去ろう。人だけでなく、家畜も這うものも空の鳥も。私はこれらを造ったことを後悔する」。

# 創世6章11～13節

- この地は神の前に**墮落**し、不法に満ちていた。神は地を御覧になった。見よ、それは墮落し、すべて肉なる者はこの地で墮落の道を歩んでいた。神はノアに言われた。「すべて肉なるものを終わらせる時が私の前に来ている。彼らのゆえに**不法**が地に満ちている。見よ。私は地もろとも彼らを滅ぼす

# 箱船の建設

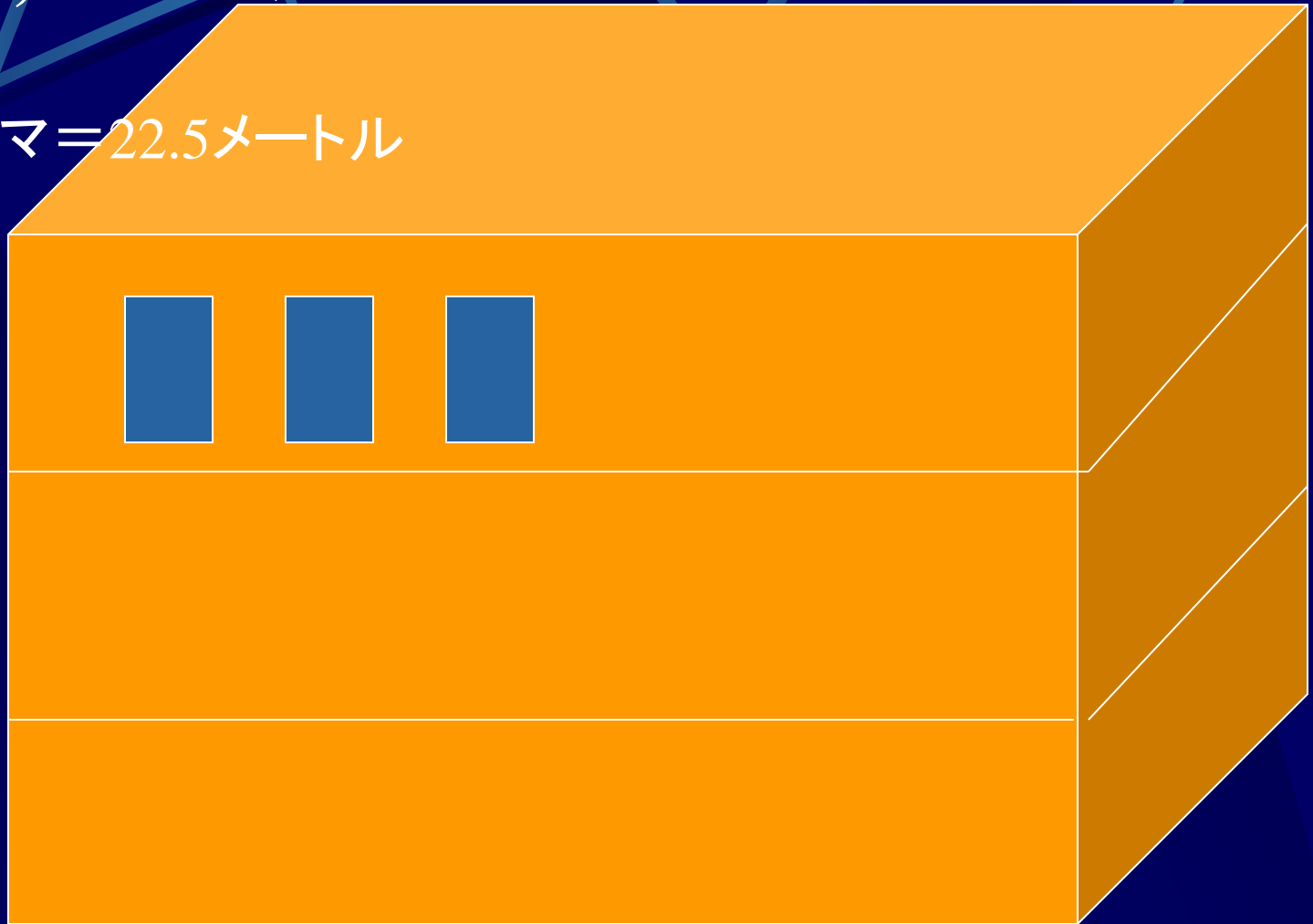
- あなたはゴフェルの木の箱舟を造りなさい。箱舟には小部屋を幾つも造り、内側にも外側にもタールを塗りなさい。次のようにしてそれを造りなさい。箱舟の長さを三百アンマ、幅を五十アンマ、高さを三十アンマにし、箱舟に明かり取りを造り、上から一アンマにして、それを仕上げなさい。箱舟の側面には戸口を造りなさい。また、一階と二階と三階を造りなさい。（創世6章14～16節）

# 箱船のイメージ (創世6,14~22)

300アンマ=135メートル

50アンマ=22.5メートル

30  
アンマ=13  
・5  
メートル





ノアの箱舟は

船？





ノアの箱舟は 船 ???

# 箱船の建造

- 創世記1章を思い出させる表現
  - ノアは命じられたとおりにした
  - 三層の箱船
  - 動物のリスト
  - 食べ物についての命令
- 箱船は「小宇宙」、修復された世界
  - ノア、動物、食料

# 洪水のイメージ

- 創世1章と反対のできごと
- 洪水や海は、破壊する力と生み出す力の両面をもつシンボル
  - 水に沈んで、つまり、いったん死んで、再生することのシンボル
- 暴力は全面的な破壊を呼び寄せ
- そこから新たな出発が始まる

# 洪水の終わり(8章13~18節)

- ノアが**六百一歳**のとき、**最初の月の一日**に、地上の水は乾いた。ノアは箱舟の覆いを取り外して眺めた。見よ。地の面は乾いていた。**第二の月の二十七日**になると、地はすっかり乾いた。神はノアに仰せになった。「さあ、あなたもあなたの妻も、息子も嫁も、皆一緒に箱舟から出なさい。すべて肉なるもののうちからあなたのもとに来たすべて動物、鳥も家畜も地を這うものも一緒に連れ出し、地に群がり、地上で子を産み、増えるようにしなさい」。そこで、ノアは息子や妻や嫁と共に外へ出た。

# 象徴的な数字

- **ノアの年齢**
- 洪水の始めに600才。地の面が乾いたのははノアが601才になった一月一日。つまり第七世紀の始まりの日。新しい宇宙の時代の開始。

# 象徴的な数字

- 完全に終わるまでの、洪水の期間は
  - 前年の2月17日から2月27日まで
  - 12ヶ月と10日。太陰暦であれば12ヶ月 =  $6 * 30 + 6 * 29 = 354$ 。12ヶ月と10日は  $354 + 10 = 364$ 日、つまり一太陽年
- 太陽が回帰する期間

# 象徴的な数字

- 洪水が終わった日は2月27日
- 元旦から57日目 =  $40 + 10 + 7$
- 完全数
  - 40 (世代が完全に入れ替わる期間)、40日雨が降る、洪水が引くまで40日
  - 10
  - 7 (7,4,10では、箱船を造る期間)



# 洪水後の世界（8章20～22節）

- ノアは主のために祭壇を築いた。そしてすべての清い家畜と清い鳥のうちから取り、焼き尽くす献げ物として祭壇の上にささげた。主は宥めの香りをかいで、御心に言われた。「人に対して大地を呪うことは二度とすまい。人が心に思うことは、幼いときから悪いのだ。私は、この度したように生き物をことごとく打つことは、二度とすまい。地の続くかぎり、種蒔きも刈り入れも寒さも暑さも、夏も冬も昼も夜も、やむことはない」。

# 洪水後の世界(9章1～3節)

- 神はノアと彼の息子たちを祝福して言われた。「産めよ、増えよ、地に満ちよ。地のすべての獣と空のすべての鳥は、地を這うすべてのものと海のすべての魚と共に、あなたたちの前に恐れおののき、あなたたちの手にゆだねられる。動いている命あるものは、すべてあなたたちの食糧とするがよい。私はこれらすべてのものを、青草と同じようにあなたたちに与える。

# 始めの世界(1章28～30節)

- 神は彼らを**祝福**して言われた。「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚。空の鳥、地の上を這う生き物をすべて支配せよ」。神は言われた。「見よ、全地に生える、種を持つ草と種を持つ実をつける木を、すべてあなたたちに与えよう。それがあなたたちの**食べ物**となる。地の獣、空の鳥、地を這うものなど、すべて命あるものにはあらゆる青草を食べさせよう」。そのようになった。

# 人間の不変化、神の変化

## ● 洪水前

- 主は、地上に人の悪が増し、常に悪いことばかりを心に思い計っているのを御覧になって、地上に人を造ったことを後悔し、心を痛められた。

## ● 洪水後

- 人に対して大地を呪うことは二度とすまい。人が心に思うことは、幼いときから悪いのだ。
- 人間は変わらない、神は変化した

# 洪水後の世界

- 創世1の祝福が繰り返される
  - 再出発、ノアの家族、動物
- しかし最初の状態はもう戻ってこない
  - 食べ物として肉
  - 人間と動物の間に敵対
- 人間の悪は洪水後も絶えない
- 悪によって破滅する傾向にある世界を、神は破滅させない、と決意する
  - 平和の契約、虹のシンボル

# ノアとの契約(9章9~13節)

- 「私は、あなたたちと、そして後に続く子孫と、**契約を立てる**。あなたたちと共にいるすべての生き物、またあなたたちと共にいる鳥や家畜や地のすべての獣など、箱舟から出たすべてのもののみならず、地のすべての獣と契約を立てる。私があるあなたたちと契約を立てたならば、二度と洪水によって肉なるものがことごとく滅ぼされることはなく、洪水が起こって地を滅ぼすことも決してない」。
- 更に神は言われた。「(省略)代々としえに私が立てる契約のしるしはこれである。すなわち、私は雲の中に私の**虹**を置く。これは私と大地の間に立てた**契約のしるし**となる。

# 物語に映しだされた現実

- 世界は人間が「創り出す」悪に脅かされている
  - 悪が破滅を引き寄せる(洪水)
  - 再出発する世界でも悪の現実は変わらない
- 神の一方的決意(ノアとの契約)により、世界は破滅から守られる。
  - 神の「怒り」を超える神の「ゆるし」が、世界の現実



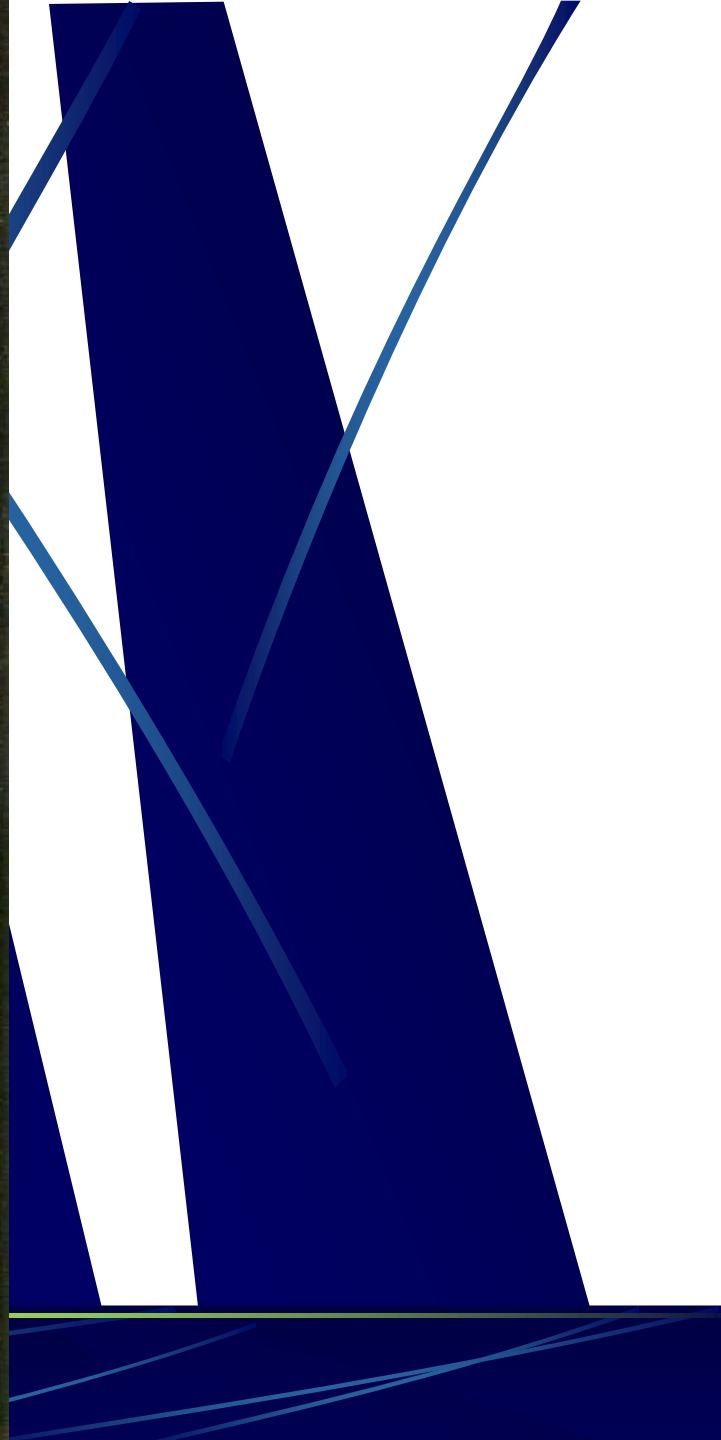
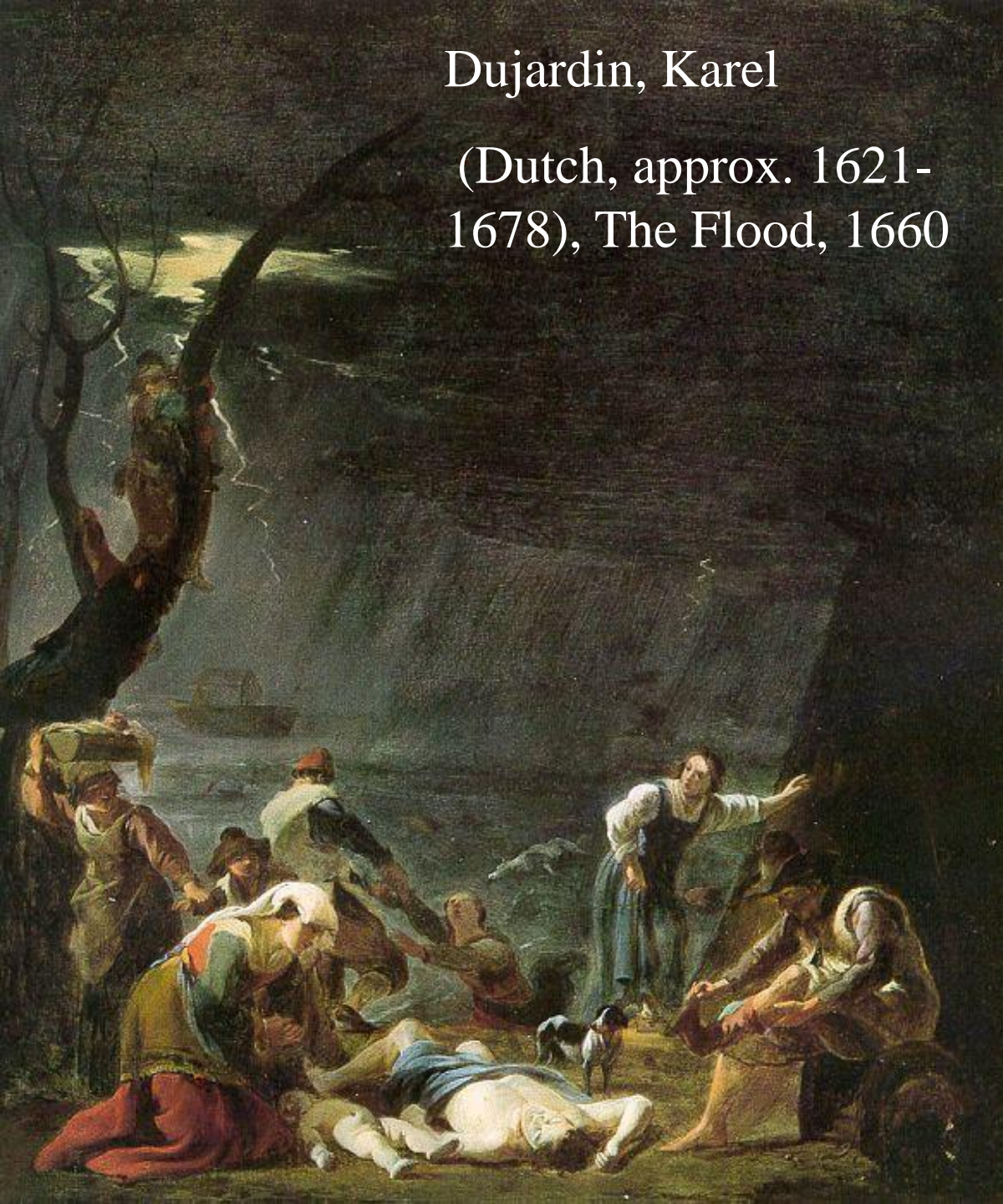


ミケランジェロ『ノアの洪水』、ローマ、システナ礼拝堂



Dujardin, Karel

(Dutch, approx. 1621-  
1678), The Flood, 1660







ミケランジェロ『洪水(部分)』 システィーナ礼拝堂